

私は大学に入学した当初からアメリカへ留学したいと強く望んでいました。そのことについて両親と相談したところ、勉強してたくさん英語を学んでほしいといわれ、両親も留学することについて快く承諾してくれました。今思い返してみると、両親には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

留学先の授業では TOEIC やリーディング、リスニング/スピーキングの授業の他にアメリカの文化を学ぶ授業などもありました。クラスは A と B の二クラスがあり、私はより発展した内容の英語を学ぶ A クラスで授業を受けました。最初の頃は、その授業の難易度の高さに驚き、授業についていくのが精一杯でした。しかし、毎回の授業に集中して取り組み、先生の言っていることをちょっとでも理解しようと努力したところ、テストで高得点を取れるようにまでなりました。

またクラスには日本人の他にサウジアラビア人、ブラジル人、中国人、韓国人の生徒もいました。最初は彼らとの会話が上手くいかなかったり、自分の思っていることを上手く伝えられなかったりととても悔しい思いをしました。しかし日常生活や普段の授業を共に過ごしていくに連れて、徐々に彼らとの会話が上手くいくようになりました。皆とてもユーモアに溢れており、おかげで毎日楽しい授業を受けることが出来ました。

課題や宿題はほぼ毎日出されます。新聞の記事を読んでその内容を要約し、そして自分の意見を述べるという **Article report** や、大学で行なわれるイベントや行事に参加し、そこで自分が出会った人物や体験したことを詳細に説明するという **Activity report** など様々な課題があります。特に **Article report** は私は一番苦手で、週末になるといつも頭を抱えていました。

授業の一環として **field trip** という遠足にでかけることもありました。**Omaha zoo** という動物園に行きましたが、その動物園は日本と比べて規模がとても大きく、爬虫類や昆虫がいる施設、また水族館などもありました。動物の種類も非常に豊富で、初めて見る実物の動物も数多くいました。動物を紹介している説明文や掲示板などはもちろん全て英語なので、そういったものを読むのも英語能力を上げるうえでとても貴重な経験だったと思います。

授業のプログラムの中にはアメリカ人の生徒と一時間会話をするというものがありました。私はショーンという生徒に担当してもらい、文化の違いや趣味、好きな女性のタイプなど様々なことについて話し合いました。ショーンは私が聞き取りやすいようにゆっくりと喋ってくれたり、出来るだけ簡単な単語を使ったりと工夫して会話をしてくれました。そのおかげで充実した楽しい一時間を過ごすことが出来ました。

留学は楽しいことだけでなく、大変なことも沢山ありました。しかし留学を通して学んだことも多くあります。この素晴らしい留学の経験を決して無駄にはせず、これからの学生生活も意識を高く持って過ごしていきたいです。